

門信徒だより

2020 4月10日

和 上 発

心地観經しんじかんぎょうと名づく報恩品ほうおんぽんに四恩しおんのことが説いてあって、私的理解として、父母の恩。教育の恩。仏法の恩。法律の恩が明かされています。

人間である私達は有形無形にこの恩の中に生まれ育てられて居り、余あまりに近すぎて知らなかったことも多くありますが、今日、国の指導にて「コロナ緊急事態宣言」が出され一日でも早く治癒ちゆすべく国民一つとなって向かっていく覚悟も、法治国家ほうちこっかを守る義務も御恩に生きる責任と思いますが、いかがでしょうか。

聖典の最後のページに「改悔文がいけもん」がありますが、四段に区切ったその二番目に他力の信徳しんとくを外に現す一段として御恩報謝の姿が定められています。

定められるとは一方的に信仰者を規制きせいする言葉で、信教の自由はんに反するのではないか、との意見があらうかと思いますが、何と云いましてこの改悔文は、自己の信仰告白文で、

蓮如宗主が門信徒の告白を聞きますと各自別々かくじべつべつでしたの

で、これを統一^{とういつ}して手本を残されたものでした。

この基本は親鸞聖人が浄土真宗^{こうぎょう}を興行されるに就き、

さんぎょういちろんみなもと

三経一論を源とされて御制作された「顕浄土真実教行信証文類」の総序巻を往相廻向の姿と自得領解を与えたものですから、

特に一流^{きょうそう}の教相を正しくする為に三度の廃立が厳しく、

この他力^{しんそう}の信相を聖人のご一流というのですから当然私

達の往生が規定され、たとへ鬼・悪魔^{ごと}の如き人格であっ

ても如来の他力^{たりき}に規制^{きせい}され、嫌でも浄土に往生しなければならぬ

自力執心^{じりきしゅうしん}を超越した他力の不思議力^{じょうたく}に乗託さ

せられる阿弥陀如来の大慈悲ですから、この他力信心に

もよお^{もよお}される我らの心得^{こころえ}は当然、信徳^{しんとく}の自律精神^{じりつ}に定められ

て、その意志が我らの意志となって体験の告白となる次第

なのでした。

ぜんじゅうしょうにん

前住聖人の遺文として或人^{あるひと}に当てた文があります。

ぶつとんほうしゃ

「佛恩報謝を明かす」。上には信心決定の相を明かし、今

は信後相続の経営、他力より成ずる謂^{いわれ}を釈したまふ。

とあって蓮如上人・聞書^{ききがき}（二七〇節・聖典九二〇頁）の梅干しのたとへを引かれたり。

一、梅干しと言ふ声の中に、梅干しの酢^{ごうりき}っぱい業力が入っているから、その声が酢っぱい味ひを引き出すのである。

しかし、梅干しを喰^くった事もない人が梅干しといふ声を聞いても決して酢^すぱい味が出てはこない。これはその人の心の中に梅干しの業^{ごうりき}力が入っていないからである。お念佛^{ひと}一つ、と聞かされても本願のお念佛を知らない人には、お念佛のお姿など分らふ訳はない。それはお念佛の業力がないから。

おやさま いただ どうしんいちみ
親様育ちの人々が戴く御徳を同信一味と申す。

一、お念佛を申すころ

何のわずらひもいらず、只、子の母をおもふころにて南無阿弥陀仏と申す事。されば南無阿弥陀仏と声に申すことは、余人^{よにんたにん}他人、余仏^{よぶつ}余菩薩^{よぼさつ}を声に呼ぶことには非ず。ワガ御^{おん}たすけありたる親の御名^{み な}をかくの如く呼びたてまつるころなり。

一、佛恩報謝といへるころ

御たすけありつる弥陀の御恩^{ほう}を報^{ほう}ずるなり。報ずる

と申すも御恩^{ごおん}がへしの如く思うべからず。されば

善導^{ぜんどう}の日く、自信^{いわ}教人^{じっしんきょうにん}信・難中^{なんちゅう}転更^{てんきょう}難・大悲^{だいひ}伝普^{でんふ}化^け・

真成^{しんじょう}報佛^{ほうぶつ}恩と。

この文の意は、ミヅカラモ信ジ、ヒトニモオシフルコ

トハ、難中難、コレニスギタル難ハナケレバ、如来ノ
だいひ
大悲ノミココロヲ ヒトニモ ツタフレバ マコトニ
ぶつとん ほう しゃ かんしゃ
佛恩ヲ報ズルニナルと。謝と申すことは感謝なり。
ごおん こうむ しゃかぜんじしき ごけどう
弥陀の御恩を蒙ることは釈迦善知識の御化導よりもよ
うされる。なれば、その徳をヨロコビ感謝せよと、の
たまへる心なり。「ありがたや たのもしや、のおも
ひなり」・・・。

この一文を以て真宗信者の信後相続の特長を知り、理論
の手本と体験の一体を信知と云いますから、文類偈の「信
知超日月光益」(仏日の破闇益と勸信釈)を我ら身口意
の^{しんちりょうげ}上に信知領解して自分たちの他力とせねば如来の大悲
は成就しないから、如来の行を我ら往生の^{しょうぎょう}正行とし、如
来の信を我ら往生の信心ととり、如来の佛智を我ら利他^{りた}
報恩の佛智とする。これ^{しんち}信知といふ。これ^{ぎやくとく}獲得のいわれ、
信知の努力を要す。と仰せでした。

コロナ戦争に荒れはてる心の静涼の一服ともなれと念じ
門信徒に贈ります。

不 許 複 製

所有者 弘願真宗総本山聖玄寺法燈局

住所 福井県福井市羽水 1-303